

基本施策

# 4-1

## 温室効果ガスの排出量削減の推進

### 目標 (目指す姿)

省エネルギー化の徹底や再生可能エネルギー<sup>\*1</sup>の地産地消を促進し、温室効果ガスの排出量削減を目指します。

SDGs 関連するゴール



### I 現状と課題

- 世界各地で異常気象が頻発し、気候危機と言われています。松本市は令和2(2020)年12月に「気候非常事態」を宣言し、2050ゼロカーボンシティ<sup>\*2</sup>を目指すとして表明しました。
- 温室効果ガス排出量削減目標が高いにもかかわらず、市民、事業者とも脱炭素の取組みがまだまだ低調です。
- 令和6(2024)年度に開催した「気候市民会議まつもと」において、市民同士が話し合い、50項目の「ゼロカーボン市民アクションプラン in まつもと」をとりまとめました。市民が気候変動を身近に感じ、自分事として具体的な行動を起こすために、松本市ではこのアクションプランを脱炭素社会実現の指針として位置付けました。
- 脱炭素の取組みは身近なことから気軽に始められます。市民ができることから取り組むことができるよう、地域経済と環境保護を両立させながら進める必要があります。
- ゼロカーボンの取組みは多岐にわたり専門用語も多いことから、難しいものと捉えられがちです。子どもから高齢者まで分かりやすくすることが必要です。

### I 重点戦略

#### ゼロカーボン

- 市民アクションの推進
- 再エネ導入・省エネ実践の推進
- 環境教育の推進

#### DX

- 情報発信のデジタル化

### I 成果指標

指標	現状値(R6)	目標値(R12)
市域の温室効果ガス排出量(森林吸収量を含む)	1,375,612t-CO <sub>2</sub> (=最新値2021年度)	910,532t-CO <sub>2</sub> (2013年度比51%削減)
市有施設全体の温室効果ガス排出量	33,076t-CO <sub>2</sub> (=最新値2024年度)	17,483t-CO <sub>2</sub> (2013年度比55%削減)

### I 施策の方向性

#### ●アクションプランを活用した市民運動の展開

「知ろう!聞こう!始めよう!」を合言葉に、ホームページやイベントでアクションプランを分かりやすく紹介するとともに、相談窓口の設置や補助金・サポートにより、市民ができることから取り組む市民運動として展開します。

#### ●松本市の自然を活かした再生可能エネルギーの地産地消の推進

太陽光・水力など地域の自然の恵みを活用してエネルギーをつくり地域で使う、再生可能エネルギーの地産地消を推進します。

#### ●日常生活での省エネ実践の促進

断熱や高効率機器への更新やごみ削減など、人にもお財布にもやさしい省エネ対策を促進し、電気自動車や公共交通の利用により環境にやさしい移動を進めます。

#### ●MZCC及びMZCEの活用促進

産学官金が連携した松本平ゼロカーボン・コンソーシアム(通称:MZCC)<sup>\*3</sup>や出資参画した松本平ゼロカーボンエネルギー株式会社(通称:MZCE)<sup>\*4</sup>を活用します。

#### ●環境教育の推進

学校教育では子どもたちが楽しく環境について学べるプログラムを充実させ、社会教育では市民向け講座や体験学習により、全世代の行動につながる学習機会を提供します。

#### 主な事業

- ゼロカーボン市民アクションプラン推進事業
- 再生可能エネルギー普及推進事業
- 住まいのゼロカーボン推進事業
- 地域エネルギー導入支援事業
- 市有施設LED化事業
- EVカーシェアリング事業
- 下水道資源活用事業
- エコスクール事業
- 小中学校環境教育支援事業

#### 関連計画

- 経済・社会とつなぐまつもと環境戦略(松本市環境基本計画)
- まつもとゼロカーボン実現計画(松本市地球温暖化対策実行計画)
- 松本市役所ゼロカーボン実現プラン
- ゼロカーボン市民アクションプラン in まつもと
- 松本市教育振興基本計画

【用語解説】<sup>\*1</sup> 再生可能エネルギー 化石燃料等とは異なり、利用しても減少しない、または比較的短期間に再生するため、枯渇せず繰り返し利用できるエネルギー。太陽光、太陽熱、小水力、バイオマス、地熱、地中熱など

<sup>\*2</sup> ゼロカーボンシティ 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の人為的な排出量から、森林などによる吸収量を差し引き、実質ゼロを達成したまちのこと

<sup>\*3</sup> 松本平ゼロカーボン・コンソーシアム(通称:MZCC) 地域の企業・大学・行政などが官民連携で協力し、脱炭素社会の実現に向けて活動する組織

<sup>\*4</sup> 松本平ゼロカーボンエネルギー株式会社(通称:MZCE) 官民連携で設立され、地域で作られた再生可能エネルギーを活用し、地産地消の電力供給などを進める会社

基本施策

## 4-2

資源循環推進による  
環境負荷軽減目標  
(目指す姿)

廃棄物の発生抑制と再利用及び再生利用を推進するなど、資源を大切に、環境に極力負荷をかけない持続可能な循環型社会を目指します。

SDGs 関連するゴール



## I 現状と課題

- 松本市の年間ごみ排出量は、平成21(2009)年度以降、短期的には増加している年もありますが、長期的に見ると減少傾向となっています。
- 県内他市と比べると、松本市は1人1日当たりのごみ排出量は依然として多く、特に集合住宅から排出される家庭系ごみの一部が事業系ごみとして未分別のまま収集されていることが一因となり、事業系ごみが多い傾向にあります。
- これまでごみ減量化施策を推進してきましたが、最終処分場の延命化や地球温暖化対策の重要性が今まで以上に高まっていることから、更なるごみの減量が必要です。
- 食品ロスの削減は、経済・社会・環境において重要な問題となっており、飲食店や家庭における啓発や子どもへの環境教育などを継続的に取り組んでいます。
- 資源の循環利用を図るため、プラスチックの3R\*1を推進してきましたが、可燃ごみには未だにリサイクルできるプラスチックが一定割合含まれています。
- 一般廃棄物を安定的に処理するための施設整備として、松本市では一般廃棄物最終処分場の再整備工事に着手し、また、松本市を含む2市2村で構成する松塩地区広域施設組合では新ごみ処理施設の建設事業を進めています。

## I 重点戦略

## ゼロカーボン

- プラスチックごみ削減の推進
- サプライチェーン全体における食品ロス削減の推進
- 環境教育の充実

## DX

- 情報発信のデジタル化
- 廃棄物の収集運搬のDX化

## I 成果指標

指標	現状値(R6)	目標値(R12)
ごみ排出量	79,772トン	74,093トン(R9)
市内食品ロス量	8,575トン(R4)	7,244トン

## I 施策の方向性

## ●ごみの減量化

今まで以上にごみの減量を加速させるため、これまで取り組んできたごみ減量化施策に加え、集合住宅から排出されているごみを適正な分別で家庭系ごみとして収集する体制を構築します。また、排出者が家庭系ごみの排出量に応じて処理費用を直接負担する制度の導入を検討します。

## ●食品ロスの削減

市民・事業者・行政等の主体がそれぞれの立場から、「残さず食べよう!30・10運動\*2」をはじめとする食品ロス削減の取組みを推進します。

## ●プラスチックごみの排出抑制とリサイクルの強化

使い捨てプラスチックに依存しない持続可能な生活様式への転換を促進するとともに、分別排出されたプラスチックごみのリサイクルを推進し、焼却量の削減を図ります。

## ●ごみの再資源化、適正処理

排出されたごみについて、適正な収集・処理体制を構築するとともに、リサイクルを徹底します。その上で、リサイクルできないものは適正処理に取り組み、環境への負荷を軽減します。

## ●廃棄物処理施設の整備

広域的な視点に立ち、将来のごみ処理体制を見据えた廃棄物処理施設の再整備、建設事業を着実に進めます。

## ●環境教育の推進

幼児から大人まで多様な学習機会を通して、ごみ減量や資源循環などへの理解を深め、環境に配慮した行動に取り組むきっかけづくりにつなげます。

## 主な事業

- ごみ減量対策事業
- 食品ロス削減推進事業、プラスチックごみ削減事業
- 事業所及び集合住宅ごみ減量推進事業
- 家庭系ごみの排出量に応じた費用負担制度検討事業
- ごみ排出実態把握事業
- 製品プラスチック再資源化事業
- ecoオフィスまつもと認定事業、環境衛生推進事業
- エコトピア山田再整備事業、新ごみ処理施設関連事業
- 小中学校環境教育支援事業、トライやるエコスクール事業

## 関連計画

- 経済・社会とつなぐまつもと環境戦略(松本市環境基本計画)
- 松本市一般廃棄物処理計画
- 松本市食品ロス削減推進計画
- 松本市教育振興基本計画

【用語解説】\*1 3R(スリーアール) ごみと資源に関わる問題を解決していくキーワード。・リデュース(Reduce)廃棄物の発生抑制(ごみになるものをできるだけ持ち込まない、必要のないものは買わない、ごみの量を減らす)・リユース(Reuse)再利用(繰り返し使えるものを選び、できるだけ何度も使う)・リサイクル(Recycle)再生利用(ごみを資源として別の製品の材料として再利用する)

\*2 残さず食べよう!30・10運動 松本市で推奨している食品ロス削減のための取組み。家庭でできる「おうちで残さず食べよう!30・10運動」と、外食時の「おそとで残さず食べよう!30・10運動」がある

基本施策

## 4-3

## 自然・生活環境の保全

目標  
(目指す姿)

自然の恵みを将来世代につなぐために、生物の多様性や清らかな水と大気、快適な生活環境の保全を目指します。

SDGs 関連するゴール



- 現状と課題**
- 平成28(2016)年に策定した松本市生物多様性地域戦略「生きものあふれる松本プラン」に基づき、生物多様性モニタリング調査を実施するなど、生物多様性の保全に取り組んでいるものの、自然保護団体からは生物数が減少しているとの声が上がっています。
  - 市民の生物多様性に対する認知度を向上させるとともに、優れた自然環境を守り、人と自然が触れ合える場所を創出することが必要です。
  - オオキンケイギクを中心とした外来植物の駆除を進めていますが、効果が出るまでには数年かかることから、継続した実施が必要です。
  - 法令に基づく環境調査や未然防止策を進めていますが、今後も良好な生活環境を保全するため、継続した調査が必要です。
  - 地下水をはじめとする水資源の保全は、市町村の枠にとどまらず流域全体で取り組む必要があります。
  - 衛生的で快適なトイレ環境の整備に向け、公衆便所や合併浄化槽などの適正な管理を進めることが必要です。
  - 近年は少子高齢化や核家族化など、社会情勢の変化に伴い、墓所管理に対する考えが多様化しています。

## 重点戦略

## ゼロカーボン

- 気候変動による生態系への影響等に関する周知啓発、環境教育

## DX

- 情報発信のデジタル化
- モニタリング、各種調査のデジタル化

## 成果指標

指標	現状値(R6)	目標値(R12)
生物多様性に関する環境学習講座等の開催数	112件	150件
河川水質(BOD)の環境基準の達成率	100%	現状維持
大気環境基準(二酸化硫黄・二酸化窒素)の達成率	100%	現状維持

## 施策の方向性 ●松本市生物多様性地域戦略の推進

生物多様性モニタリング調査や市民生きもの調査を実施するとともに、その調査結果を生物多様性エコスクールで活用することにより、松本市の自然への親しみと理解につなげます。また、特定外来生物による生態系への被害を防止するため、市民や関係機関と連携して駆除対策を推進します。

## ●公害の未然防止

法令に基づく環境調査や事業者への立入調査・指導のほか、周知活動などにより市民・事業者に対して生活環境への配慮に関する啓発を進めます。また、松本市内の大気測定局を活用して大気環境を監視し、きれいな空気を守ります。

## ●地下水保全の推進

地下水位の一斉調査を継続し、アルプス地域地下水保全対策協議会の枠組みの中で、広域的な地下水保全施策を推進します。

## ●衛生環境保全の推進

合併浄化槽を適切に管理することにより、施設の延命化を図ります。また、市民の衛生環境保全のため、衛生的で快適な公衆トイレの適正管理を進めます。

## ●利用者ニーズに合わせた墓地整備

樹木式墳墓\*1や合葬式墳墓\*2など、多様化する墓地需要を反映した整備を更に拡充します。

## 主な事業

- 生物多様性保全事業、生物多様性エコスクール
- 外来植物駆除推進事業
- 市内河川水質調査
- 大気・ダイオキシン類常時監視
- 産業廃棄物処理施設周辺環境調査
- 地下水対策事業
- 浄化槽管理事業、公衆トイレ管理事業
- 中山霊園管理事業、合葬式墳墓整備事業

## 関連計画

- 経済・社会とつなぐまつもと環境戦略(松本市環境基本計画)
- 松本市生物多様性地域戦略(生きものあふれる松本プラン)

【用語解説】\*1 樹木式墳墓 合葬式墳墓の新たな形態として中山霊園に設置された、1本の墓標とみなすシンボルツリー(シダレ桜)の周辺に遺骨を1体ずつ埋葬する墓地

\*2 合葬式墳墓 中山霊園に設置された、一つの施設に複数の遺骨を合同で埋蔵する墓地で、個別埋葬と共同埋葬がある

基本施策

## 4-4

## 森林の保全・再生・活用

目標  
(目指す姿)

森林の保全、再生の循環サイクルを確立するとともに、木材の利活用を推進し、持続可能な森林循環の構築を目指します。

SDGs 関連するゴール



- Ⅰ 現状と課題**
- 令和6(2024)年度に策定した「松本市森林長期ビジョン」に基づき、松本市の豊かな森林環境の保全や、希薄化している森林と市民の関わりを強化するため、50年先を見据えて市民主体の取組みを推進しています。
  - 森林所有者及び林業事業者が実施する森林造成事業に対し、補助金交付等で支援を実施していますが、市民や森林所有者の施業に対する理解促進が必要です。
  - 民有林の16%(約6,000ha)を占めるアカマツにおいて松くい虫による枯損被害が拡大しており、被害を抑制することは困難な状況です。
  - カラマツは合板の原料に用いられることがほとんどで、建築主要部材としての利用は限定的であることから、地域産材の流通、利用拡大が課題となっています。
  - 木材のエネルギー利用について、薪・ペレット等のストーブ燃料のほか、近隣自治体でのチップを活用した大規模木質バイオマス発電所<sup>\*1</sup>の稼働等により、松本平におけるエネルギー源としての木質バイオマスの需要が高まっており、材の安定的な確保・供給の仕組みづくりが求められています。
  - 野生鳥獣の人里や市街地への出没が増えており、農林業被害や人的被害につながるおそれがあるため、有害鳥獣被害対策の拡充が求められています。

## Ⅰ 重点戦略

## ゼロカーボン

- 吸収源対策としての森林整備の推進
- 木材のエネルギー利用
- 森林資源の再生可能エネルギー化、販路拡大

## DX

- 情報発信のデジタル化
- 森林の保全・管理、林地台帳管理システムの高度化
- デジタル技術を活用した有害鳥獣駆除対応の効率化

## Ⅰ 成果指標

指標	現状値(R6)	目標値(R12)
森林整備面積	123ha	現状維持
市有林の主伐面積	2.0ha	現状維持
カラマツ材住宅補助金によるカラマツ使用量	30m <sup>3</sup> /年	32m <sup>3</sup> /年
ストーブ関係補助金の交付台数	31台/年	35台/年
有害鳥獣駆除捕獲数(獣類)	2,536頭	2,900頭

## Ⅰ 施策の方向性 ●森林長期ビジョンの推進

令和7(2025)年度に設立した市民団体の活動を支援しながら、奥山・里山・市街地の多様な場面における森林と市民との関わり合いを増やすため、イベント、フォーラム及び研修会などの開催を推進します。

## ●森林の保全・再生・整備

森林整備を通じて、土砂災害の防止、水源のかん養、生物多様性の保全など森林の有する多面的かつ公益的機能を維持するとともに、次の世代に引き継ぐため、管理できない森林所有者に代わって林業事業者が整備できる森林経営管理制度システム(マッチング方式)を推進します。また、松枯れ対策として伐採や樹種転換など、被害拡大防止や被害木の有効活用を図ることで森林再生を推進します。

## ●森林資源の利活用による産業振興

市有林カラマツの主伐と植林を推進し、「伐って、使って、植えて、育てる」という安定した森林サイクルの確立を目指します。また、スマート林業の導入・普及により林業事業者の収益性等の向上を図るとともに、公共施設をはじめとして、建築用材としての活用促進を図ります。

## ●再生可能エネルギーとしての木材活用

薪・ペレットを燃料とする木質バイオマスストーブの購入支援のほか、森林資源の最大活用の観点から、製材端材や剪定枝といった未利用材及び松枯れ被害木等の枯損木のチップ化により、地域への木質バイオマス燃料の安定供給を推進します。

## ●森林環境を保全するための鳥獣被害対策

野生鳥獣による農林業被害等を軽減するため、近隣市村や関係機関と連携を図りながら、捕獲対策、生息環境管理を組み合わせた総合的な対策を推進します。

## 主な事業

- 市民と森林をつなぐ事業
- 森林整備事業
- 森林経営管理制度推進事業
- 松枯れ対策事業
- カラマツ材販路拡大事業
- 薪等ストーブ購入事業補助金
- ペレットストーブ等購入事業補助金
- 枯損木利活用事業
- 有害鳥獣対策事業、鳥獣被害防止総合対策事業

## 関連計画

- 経済・社会とつなぐまつもと環境戦略(松本市環境基本計画)
- 松本市森林整備計画
- 松本市農林業振興計画
- 松本市森林長期ビジョン

【用語解説】<sup>\*1</sup> 木質バイオマス発電所 木材(間伐材・廃材など)を燃料として燃焼させ、タービンを回して電気を作る発電所。発電方法として、木材を直接燃焼させて発電させる「蒸気タービン方式」と、木質バイオマスをガス化し、そのガスを燃焼させる「ガス化-エンジン方式」に分かれる